

と語るの...  
西地方の支店で法人融資を担  
当する男性行員(32)。普段は  
ドラマを見ないが、堺さんの  
フアンの妻と見始め、銀行内

# リア

時代劇  
バブル期に就職した金融関  
係の男性(48)は「僕らの世代  
は固まりのように大量に人が  
れば希望が見えるドラマが支  
持されるのは、社会が不況か  
ら立ち直る兆しかもしれない」と語った。

# ブルネイで糖尿病研究

## 香川大、現地の国立大と

香川大は、糖尿病の罹患率が高い東南アジアのブルネイの糖尿病治療などに関する研究を、同大医学部が中心となり現地の国立大と共同でスタートさせる。糖尿

面積は5765平方キロと香川の3倍ほどで、人口は約40万人。

関する香川の取り組みやブルネイの現状など、情報交換を進めてきた。

尿病や肥満の現状を調査するほか、子どもへの食育や健康食品の開発なども目指す。ブルネイの研究を通じ、受療率や死亡率で全国ワースト上位が続く香川での糖尿病克服につなげたい考え。

10年の国際糖尿病連合の調査によると、ブルネイの糖尿病罹患率は12・6%(同年の日本は5・0%)で、東南アジアで1位、世界で14位。研究チームの徳田雅明香川大医学部教授によると、背景には、甘い物や揚げ物などを好む食習慣のほか、石油や天然ガスが豊富な車社会で公共交通機関が未発達なため、運動不足になりがちなのが考えられるという。

共同研究は、糖尿病・肥満の現状分析や課題の抽出▽食育や運動の重要性の教育▽希少糖などを活用した低カロリー食品の開発の3本柱。香川大の教育学部や農学部など他学部とも連携し、子どものころからの健康教育を浸透させることや希少糖をアジア諸国にも売り出すのが狙い。

共同研究は、日本学術振興会の「二国間交流事業オープンパートナーシップ共同研究」に採択された。期間は2015年3月末までの2年間。

香川大とブルネイ・ダルサラーム大の医学部は、05年から教員や学生の人的交流を続けており、09年には大学同士で学術交流協定を締結。同年から、糖尿病に

将来的には、中核病院の専門医とかがかりつけ医を結び、患者の情報を共有する「かがわ遠隔医療ネットワーク(KIMIX)」の仕組みを応用し、専門医の少ないブルネイでの糖尿病患者の治療に役立てる計画もある。

ブルネイは、太平洋に浮かぶボルネオ島にあり、マレーシアの隣に位置する。

ある。

ある。

徳田教授は「車社会で運動不足になりがちなど、香川とブルネイには共通点もある。研究を成功させ、アジア各国の糖尿病の多さを克服するモデルケースにしたい」と話している。

### 「重監

### 群馬 ハンセン病施設跡から食器

国立ハンセン病療養所「重監園」(群馬県草津町)にあった懲罰施設「重掘調査で、収容者による木製のわんや箸、調査員が19日、取り出した。

国立ハンセン病療養所「重監園」(群馬県草津町)にあった懲罰施設「重掘調査で、収容者による木製のわんや箸、調査員が19日、取り出した。



国立ハンセン病療養所「栗生」地から見つけた木製のわん  
19日午前、群馬県草津町